

## 第 31 回アンケート結果（抜粋）

### 一般講演 5：「オノマトペと生体データを活用したストレス状態可視化の取り組み」

1. どの会社でも社員の心の健康状態については、最大の関心事の一つだと思います。私共の会社でも脂の乗った中堅どころの退職が問題にもなりました。オノマトペの結果と生体データの関係性が特定できるのならば、オノマトペによる簡単な調査で、社員の心理状態をある程度の誤差のなかで把握できるのではないかと期待します。
2. 今後、より多くのサンプルデータの計測を期待します。
3. 隠れた気持ちを引き出すためにオノマトペは有効だと感じました。
4. 「痛み」の表現に **Face Scale** などが利用されているので、これを使ってみたらどうでしょうか？仕事の節目ごとに本人が **Facebook** のボタンのように入れさせてはどうでしょうか？もっと高頻度になるし、振り返りにもなるのではないのでしょうか。
5. オノマトペは主観であり、本来、数値化できないものを、直観により表現するものであり、数値化は少し違和感がある。例えば、個人に対しては感性評価実験をしたりして、直観のブレを明らかにした方が良いと感じた。また言語進化の研究室にいたが、海外の人はオノマトペを覚えることができても、うまく使えない。
6. オノマトペを尺度にするというのは、かなり難しいことだと感じました。
7. オノマトペは尺度としては考えない方が良いかと思いました。
8. 大変興味深いテーマだと思いました。

### <発表者コメント>

発表当日およびアンケート用紙にて、たくさんの方々からアドバイスやコメントを頂戴しました。たいへん感謝しております。ありがとうございました。

### やはり「オノマトペでヒトの気持ちを数値化して、ストレス状態を把握する」ことは難しいのでしょうか...？

私自身は「オノマトペ」について、まだまだ勉強不足であると認識しておりますので、皆様からのアドバイスや先行研究（論文）、書籍等を参考にさせていただき、今後の研究内容を検討したいと思います。

なお、本研究の動機や目的について、発表時の説明が不十分でしたので、補足させていただきます。

すでに、さまざまなウェアラブル端末を用いて生体データを計測し、ストレス状態を評価する手法が提案されていますが、日常業務のなかでソフトウェア技術者にそれらの着用を継続させるのは、心理面やコスト等の負担が大きいと考えております。

そこで、本発表の動機としましては、「生体データと何らかの関連性のあるアンケート手法」を見つけ出して、「プロジェクトマネージャとソフトウェア技術者との認識のギャップや言葉の裏に隠されている本当の気持ちを少しでも早く察知して、適切な対応策の実施を支援できないだろうか」、と考えました。

まだ研究活動を始めたばかりですので、研究の目的や実験方法などの改善が必要であると認識しております。

オノマトペの活用方法や適切なストレス評価方法など、何かアドバイスがございましたら、ぜひご教授いただきたいと思いますと考えております。

皆様からのご意見・ご感想・アドバイスをお待ちしております。

ありがとうございました。

(以上)